

令和 5 年度 学校評価 自己評価書（2 学期）

1 学校の重点目標

- 豊かな人間性と健やかな体を備えた生徒を育成する。
- 「確かな学力」を持ち、未来を切り拓く生徒を育成する。
- 信頼される開かれた学校教育を推進する。

2 課題と改善策

※ 職員の評価は 4 段階評価とする

重点課題と評価項目	職 員	評価結果と改善方策
<p>1 人権教育の推進と豊かな心を育む道徳教育の充実</p> <p>(1) 計画に沿って、授業を実施している。</p> <p>(2) 総合単元的な授業の展開に努めている。</p>	<p>3. 1</p> <p>2. 9</p>	<p>○講師を招聘しての人権教室を毎年開催することで、3年間を通して様々な人権問題について理解を深められるように努める。</p>
<p>2 発問を工夫し思考力・判断力・表現力を高める授業改善の工夫</p> <p>(1) 基礎的・基本的な内容を明確にして、教材や板書を工夫している。</p> <p>(2) 生徒や保護者の願いを具体化し、自ら学ぼうとする具体的な学習指導プランの作成に努めている。</p> <p>(3) 「主体的・対話的で深い学び」を意識して、授業を展開している。</p>	<p>3. 3</p> <p>3. 0</p> <p>3. 0</p>	<p>○基礎的・基本的事項の定着に向けて、繰り返し演習をさせるなどの取り組みを行う。</p> <p>○ロイロノートを中心に、ICTを効果的に活用することで、少しずつだが授業改善に繋げることができている。</p> <p>○デジタルドリルを活用する教科が増えてきている。</p>
<p>3 一人一人を大切にしたい指導や支援の工夫</p> <p>(1) 様々な検査や調査を活用して、的確な実態把握と個別支援カードを活用した適切な個々の把握に努めている。</p> <p>(2) 合理的配慮の提供に努め、特別支援教育の工夫を行っている。</p>	<p>3. 1</p> <p>3. 1</p>	<p>○特別支援教育委員会(月1回開催)を中心に支援の方法や関係機関等との連携について協議し、その内容について共通理解を図る。</p> <p>○特別支援教育支援員と連携を密にとり、学習支援を進めていく。</p>
<p>4 教育相談を生かした積極的な生徒指導の充実</p> <p>(1) 生徒指導部会(心の教育推進委員会)等で確認した共通理解事項を日常の指導に生かしている。</p> <p>(2) 気になる生徒についての情報連携を積極的に行い、必要とする支援に努めている。</p> <p>(3) 生徒への意図的な語りかけやカウンセリングを通して、個に応じた積極的な生徒指導の推進に努めている。</p>	<p>3. 3</p> <p>3. 4</p> <p>3. 2</p>	<p>○生徒指導委員会を月2回実施するようになり、気になる生徒の理解や不登校対応等について共通理解を図ることができてきている。</p> <p>○不登校生徒について、関係機関等と連携して対応することができるようになった。</p> <p>○小規模校の利点を活かし、すべての生徒への声掛けや見届け指導を徹底していく。</p>

<p>5 夢を創り夢を持ち未来を切り拓くための系統的なキャリア教育の展開</p> <p>(1) 啓発的な体験活動の推進をとおして、望ましい職業観・勤労観の推進を図っている。</p> <p>(2) 地域や保護者、関係機関と連携したキャリア教育を推進している。</p> <p>(3) 様々な活動において、目標を持たせ、活動の振り返りをさせることで、達成感や次の活動への意欲を高めさせるよう努めている。</p>	<p>3. 2</p> <p>2. 9</p> <p>3. 2</p>	<p>○「校内ハローワーク」では、様々な職種の講師を招聘することができ、生徒の興味・関心を高めるとともに、充実した取組となっている。</p> <p>○2学期途中から全校朝会の中で実施している「ようこそ先輩」講話を継続させ、充実できるようにする。</p>
<p>6 健康でたくましい心と体の育成</p> <p>(1) 生徒の表情や様子を観察・確認し、心身ともに健康な生徒の育成に努めている。</p>	<p>3. 2</p>	<p>○生徒会と連携した活動を取り入れたことで、生徒同士の交流が深まり、運動の楽しさを感じる機会を多くつくることのできた。</p>
<p>7 小中交流タイムの充実、学びを高める小中連携の推進</p> <p>(1) 授業を通じた実践研修や小中連携による研修の充実に努めている。</p> <p>(2) 小学校との児童生徒理解を深め、いじめの早期発見対応や不登校児童生徒への適切な対応に努めている。</p> <p>(3) 様々な行動や活動をとおして小学校との連携を充実させ、推進委員会や各研究組織が計画的に運営され、職員一人一人が積極的な活動や研究を推進している。</p>	<p>3. 0</p> <p>3. 0</p> <p>2. 9</p>	<p>○小中交流タイムでは、新生徒会が中心となって、企画・運営を行い、中学生による絵本の読み聞かせやレクリエーション、クリスマスツリーのタペストリー作りを実施するなど、充実した活動となった。</p> <p>○小中合同職員研修では、小学校の市研究協力校研究公開「教育の情報化」に全職員が参加し、研修を深めることのできた。</p> <p>○小中連携参観週間を充実させる。</p>
<p>8 食育（弁当の日）と関連させた総合的な学習の時間の探究</p> <p>(1) 「弁当の日」のねらいと総合的な学習の時間の目標（探究的な学習過程をとおした資質・能力の育成）とを意識した指導に努める。</p>	<p>3. 4</p>	<p>○11月に実施する「弁当の日」の活動については、弁当の日推進委員会で検討した改善策を、次年度の教育課程編成に活かせるようにする。</p>
<p>9 時間や成果を意識した業務改善の推進</p> <p>(1) 校務の計画的な遂行に努めている。</p> <p>(2) 超過勤務を少なくし、定時退庁などの勤務時間の適正化に努めている。</p>	<p>3. 3</p> <p>3. 4</p>	<p>○職員朝会等を活用して、定時退庁日（毎週水曜日）の呼びかけを積極的に行っていく。</p> <p>○校務については、早めの企画・立案を心掛けるとともに、互いに協力して取り組めるような雰囲気づくりを醸成する。</p>